２０２６年度　東京都立大学大学院
人文科学研究科　入学試験
（2 月入試）

教室名（分野名）	社会学教室
課程	博士前期課程
試験区分	☑　一般学生 □　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	言語科目（英語）
出題の意図	I. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 II. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 III. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。 IV. 社会学分野の文献を読むために必要な英語の力を問う問題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2026 年 2 月実施

言語科目（英語）

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 問題は I~IV の 4 題である。
   I、II、III、IV の各問題ごとに、答案用紙を 1 枚ずつ用いて解答せよ。
   （答案用紙の枚数は、受験生 1 人について計 4 枚である）

2. 答案用紙ごとに、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

3. 答案用紙はウラ面を用いてもよい。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

4. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

Ⅰ 以下の英文を読んで問題に答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

(出典: Griesbach, K. (2025). Positioning Stories: Accounting for Insecure Work. *American Sociological Review*, 90(3), 493-520. 出題の都合で変更した箇所がある。)

1. 研究対象者の４グループを日本語で説明しなさい。

2. 本研究と【A】の差異を日本語で説明しなさい。

3. 【B】を和訳しなさい。

II. 以下の英文を読んで問題に答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

(出典: Gruijters, R. J., Raabe, I. J., & Hübner, N. (2024). Socio-emotional skills and the socioeconomic achievement gap. *Sociology of Education*, *97*(2), 120-147. 出題の都合で変更した箇所がある。)

1. 【A】を和訳しなさい。

2. 【B】を日本語で説明しなさい。

3. 【C】を和訳しなさい。

III　以下の英文を読み、下線部①と②を日本語に翻訳せよ。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

出典　Robert M. MacIver, *The Modern State*, Oxford University Press, 1928.

Ⅳ　次の英文を読み、下の問いに日本語で答えなさい。

問題本文は著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

出典：Elizabeth Shove, Mika Pantzar and Matt Watson, 2012, *The Dynamics of Social Practice*.

（1）下線部①の理由を本文の内容に即して答えなさい。
（2）下線部②を日本語に訳しなさい。

２０２６年度　東京都立大学大学院

人文科学研究科　入学試験

（2 月入試）

教室名（分野名）	社会学教室
課程	博士前期課程
試験区分	☑　一般学生 □　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	専門分野基礎知識
出題の意図	I. 社会学の理論と方法についての知識と理解を問う問題である。 II. 社会学の理論と方法についての知識と理解を問う問題である。 III. 社会学的知見からデータ・資料を読む力を問う問題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2026 年 2 月実施

専門分野基礎知識

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 問題は I~III の 3 題である。
   I、II、III の各問題ごとに、答案用紙を 1 枚ずつ用いて解答せよ。
   （答案用紙の枚数は、受験生 1 人について計 3 枚である）

2. 答案用紙ごとに、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

3. 答案用紙はウラ面を用いてもよい。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

4. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

I

問 1　次の（1）～（5）の設問について、日本語で答えなさい。

（1）カール・マルクスの史的唯物論における「下部構造」と「上部構造」とは何か。両者の関係について、経済決定論と区別しながら説明しなさい。

（2）マックス・ヴェーバーは、支配の正当性をどのように類型化したか。正当性という概念が、単なる強制とどのように区別されるのかに言及しつつ説明しなさい。

（3）エミール・デュルケムが「社会的事実を物のように考察せよ」と述べた理由は何か。この主張が社会学的方法論において持つ意味に言及しつつ説明しなさい。

（4）アーヴィング・ゴフマンの相互行為論における「役割距離」とは何か。個人と社会的役割との関係をどのように捉えているかに言及しつつ説明しなさい。

（5）ピエール・ブルデューの理論における「象徴資本」とは何か。経済資本や文化資本との関係に触れながら説明しなさい。

Ⅱ

問１　次の①～⑦の社会学等の専門用語のなかから５つを選んで、具体的に解説しなさい。

①生態学的誤謬
②グラウンデッド・セオリー
③信頼性と妥当性
④ライフストーリー（ライフヒストリーとの差異に言及）
⑤スノーボールサンプリング
⑥厚い記述（クリフォード・ギアツに言及）
⑦交絡

III　次の２つの図をみて、以下の問いに答えなさい。

著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

出典：イチロー・カワチ，2013,『命の格差は止められるか；ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』小学館　　ただし、出題の都合、改変した箇所がある。

著作権上、ホームページに掲載することができません。出典を参考にするか、東京都立大学南大沢キャンパス人文社会学部教務係の窓口で閲覧してください。

出典：イチロー・カワチ，2013,『命の格差は止められるか；ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』小学館　　ただし、出題の都合、改変した箇所がある。

問1　図1は、個人の所得と健康（ここでは寿命）の関係を示すものである。
個人の所得と寿命の関係について、図1から読み取れることを記しなさい。

問2　図2は、所得の格差と健康（ここでは寿命）の関係を考えるために、図1をもとに作成されたものである。
図2をみながら、次の文中の（　　）の中に、適切な数字、または語句を入れなさい。
答案用紙には、①～⑧と書いた後に、そこに入れる数字または語句を書きなさい。

所得格差の小さい国Aと、所得格差の大きい国Bがあるとする。図2は、この2つの国に現れる、平均寿命の差について考えるためのものである。わかりやすくするために、国Aの構成員は、年収200万円の人が1人と、300万円の人が1人とする。国Bの構成員は、年収100万円の人が1人と、400万円の人が1人とする。国Aも国Bも、平均年収は　①（　　）万円である。

国Aにおいては、所得の低い人、つまり年収200万円の人の（平均）寿命は　②（　　）歳であり、所得の高い人、つまり年収300万円の人の（平均）寿命は　③（　　）歳で、国A全体でみると、平均寿命は　④（　　）歳となる。

国Bにおいては、所得の低い人、つまり年収100万円の人の（平均）寿命は　⑤（　　）歳であり、所得の高い人、つまり年収400万円の人の（平均）寿命は　⑥（　　）歳で、国B全体でみると、平均寿命は　⑦（　　）歳となる。

つまり国Aも国Bも平均年収は同じであるが、「所得格差の大きい国B」は、「所得格差の小さい国A」より、「平均寿命は　⑧（　　）くなる」ということになる。

このように、この図からは、所得格差という社会全体の特性が、所得の低い人だけでなく、高い人も含めた人々の健康に影響を与える可能性が示されており、「所得格差仮説」と呼ばれている。

問3　問2でみてきた「所得格差がもたらす人々の健康への影響」は、社会の中で、どのようなメカニズムで起きると推測されるか。

(1) あなたの仮説を1つ記しなさい。

(2) (1)で考えたあなたの仮説を検証するために、どのような研究が考えられるか。あなたが考える研究計画を記しなさい。

２０２６年度　東京都立大学大学院

人文科学研究科　入学試験

（2 月入試）

教室名（分野名）	社会学教室
課程	博士前期課程
試験区分	☑　一般学生 □　外国人特別学生（留学生）
試験科目名	論文
出題の意図	自身のこれまでの研究をふまえ、博士前期課程入学後の研究テーマ・計画を適切に立案・表現する能力を問う課題である。

※公開している入試問題について、私的利用以外の目的で複製・転載・転用することを一切禁じます。

大学院人文科学研究科社会学分野 博士前期課程

2026（令和 8)年度入学者選抜 試験問題

2026 年 2 月実施

論文

受験生は、下記の注意事項をよく読んで解答せよ。

1. 答案用紙に、必ず、受験番号と氏名を記入せよ。

2. 監督員の指示があるまで、問題を開いてはならない。

3. 解答は答案用紙の両面 1 枚以内にまとめよ。ただしウラ面を用いた場合はオモテ面にその旨を記せ。

大学院入学後に行う自身の研究テーマを、以下の事柄に触れつつ論じてください。

1）自身のこれまでの研究（卒業論文を書いたことがある人は卒業論文を、卒業論文を課せられていない大学出身者は大学時代に自分で調べたこと）の説明。

2）自身の研究テーマを研究したいと考えた動機。

3）自身の研究テーマに関する先行研究。

4）どのような方法を用いて研究するのか。